

令和4年度 第1回伊勢市産業支援センター運営協議会結果概要

1 日 時：令和4年8月5日（金）14：00～15：30

2 場 所：伊勢市産業支援センター 研修室

3 出席者：委員 12 名

事務局 商工労政課：東世古課長、南主幹、山中

産業支援センター：澤村センター長

欠席者：3名（中野委員、奥山委員、牛場委員）

4 概 要：内容は以下のとおり。

（1）課長より開会のあいさつ、新たに就任した酌井委員の紹介

（2）議題

①令和3年度事業報告について

②令和4年度事業概要について

産業支援センター担当より資料に基づき説明

（主な意見等）

・商品開発でどのような支援があったのか、就労雇用支援で参加人数が上がっているが、企業側と学校側の考え方が違うというのは、具体的にどのような違いがあるのか。

→新規商品開発について、デジタル関係、飲食関係が多い傾向にある。就労支援に関しては、オンラインに切り替えたことで対応できる人数が増えた。皇學館大学に関しては、就労支援の必要性をあまり感じていただけていない印象を受ける。伊勢工業高校は地域企業では保護者、先生方に納得していただけないという事情がある。現場の先生に負担がかかる点も懸念される。新たな関係を築けるよう考えていきたい。

・高校生の場合、先生との濃い関係を築く事が大切。水産高校の先生を連れて伊勢の3企業を回り、3年かけて一人採用に至った。一人採用したら、次の後輩がすぐに見学会に来た。まず、周辺の高校の先生に伊勢に来てもらおうとよい。

→指定管理の1期目までは南勢地区の先生を対象とした企業見学会を開催していたが、就労に関してはセンターは後発の機関であり、2期目に入るときに止めた経緯がある。伊勢からは若者が出ていくが、周辺市町からは若者が入ってくるという現状もある。地域の就労雇用対策も連携して取り組む必要がある。

（3）報告

①伊勢市支援事業について

②今後の産業支援（案）について

（主な意見等）

- ・展示会の出展者が固定化されていることに対して、何か対策は考えているか。
- 具体的な案は出ていないが、各団体が行っている事業を取りまとめて、出展者の固定化、希望する事業者が多くはないという現状が見えてきた。今後どうしていくのかを協議させていただきたいと思っている。
- ・出展するための条件は。何が一番ネックなのか。
- 小規模な事業所は人を出すのが難しいと聞いている。
センターでは、中京地区の大きな展示会に対して共同出展支援を行っている。基本的な料金はセンターで賄って、人員や設備費用は企業側で出してもらうという形で行っている。多岐にわたる専門的な展示会には出展者が多いがそこには支援がない。これまでセンターがやってきた出展支援は利用しにくかったのではないかなと思う。
- ・まずは県内で知ってもらい徐々に広げていき、首都圏では iPad で生産者や事業者が話をするというような方法もあるので、色々模索していただきたい。
- ・素晴らしい取り組みをしている企業を訪問して、企業がどうすれば学生が来てくれるのかを学べるような取り組みがあれば、市内企業は嬉しいのではないかな。長野県の伊那食品工業、岐阜県のミライ工房の事例がある。
また、昨今外国人の雇用に関する相談が多い。外国人の雇用に対する支援も需要があるのではないかな。
- ・玉城町の小さな企業で、我々と3年くらい毎年展示会に出展し、大きな仕事に繋がった企業もある。技術が優れている企業がいくと、評価を受けて伸びる可能性がある。首都圏の大きな展示会は少額の補助金ではできないので、市が借り受け、一方でニッチな技術を周知する場合は支援の仕方が変わってくる。両方向に考えていただくとよい。
- ・人員6.5人というのは、質的な面、量的な面で足りているのか。
- 人件費をもう少し厚くせざるを得ないという印象をもっている。委託費の半分以上が人件費ではあるが、有名な支援機関などの事例を考えると、人件費としては少ない。質も変わってくる。若干余力もあるので、今のレベルであれば妥当。
- ・伝統工芸支援で、講座の開催は伝統工芸従事者の協力が得難いとあるが、得難いのか。
- 伝統工芸と認定を受けている事業者の就業状態を考えると、講座を開いて講師として活動するのが非常に難しい状況。伝統工芸従事者に受け入れてもらえなかったため、昨年の伝統工芸のイベントを断念した。ハードではなくソフト面、経営支援に移行していく必要があると考えている。
- ・自分の代で終わるという伝統工芸従事者もいる。後継者をどう確保し育成していくのかは大きな課題。作っていく方々がいないと継続できない。若手を育ててい

く取り組みをするところがあり、それが続くということが必要だと思う。

→伊勢玩具を例に出すと、昨年度、伝統工芸保存協会と協力してユーザー層に向けた伊勢玩具のPRの取り組みをさせてもらった。土産物として発展してきたが、現代の子どもたちに喜ばれるか、工芸品、美術品として受け入れられるかというところもある。どうユーザー層に訴求を図るのかということも協力しながら考えていきたい。

- ・高校などで伝統工芸を学ぶカリキュラムを授業の中に組んでもらうと、親しみをもてるし、しっかり学ぶことができるのではないかな。

- ・先日スポーツクラブのイベントでけん玉大会をし、非常に盛り上がった。どんなところでも広められるのかと思った。

→首都圏で物産展を実施するときに伊勢玩具のサンプルをもっていくと、ある程度売れる。若い世代にも触れてもらう、理解してもらうことも必要があると思う。学校での受け入れが可能かどうかということも含めて相談していきたい。

伝統工芸を産業として盛り立てていくという中で、どこまで成長させていけるか、シェアはどれくらいなのかという戦略をしっかりと持たないと、だらだら続いていくだけ。真剣に議論していく場が必要かなと思う。

- ・就労支援だが、鳥羽商船高専なども今はAIやロボットなどに力を入れていると思う。鳥羽商船高専も就労支援の対象にしたらどうか。

→地域の大きな枠組みの中では名前を出して頂いているようだ。センターが行う企業見学は、ニーズにかなう企業がなく辞退されている。その分、起業勉強会をさせていただいていた。

- ・展示会については、できるだけ新たな事業者に参加してほしい。小規模事業者はパンフレット、ポスターもなく、出展の仕方がわからないため、そこから支援していかないと難しい。何泊も行けないので行く場所も近場に限られてくるが、出展すればそれなりの効果はある。

→良いご意見等をいただいたので、参考にさせていただいて、今後の伊勢の産業支援について考えていきたい。

(4) その他

委員の委嘱期間が令和4年12月末までとなっているが、引き続き委員に就任することについて、濱口委員（伊勢商工会議所食品部会長交代予定）、林委員から辞退したいとの申し出があった。

<閉会>